

## ベンチャーサークル合同説明会

ベンチャーサークル合同説明会が開催されるきっかけとなったのは、「自分の所属するボランティア団体では人員が足りない。でも自分たちの団体だけで説明会を開いたところでは人は集まらないだろう」というボランティア活動を積極的に行っている明学生の声であった。ボランティアセンターに出入りしている他のボランティア団体の人からも同様の声が上がリ、人員不足という問題は多くの団体が抱えている問題であることが分かった。そこで、どうしたら新しい仲間を獲得することができるか考えた。1つの団体で説明会を開いても人が集まらなくても、人員不足に悩む団体が一同に集まったら、人も集まるのではないだろうか。そうすれば、聴きに来る側にも、様々なボランティアの中から自分の興味のあるボランティアを見つけることができる、団体に所属する学生が直接プレゼンすることによって実際に活動を行っている学生の生の声を聞ける、直接質問もできるので、活動に参加しやすくなるというメリットがあるのではないかと考えた。このように、人員不足に悩む団体、聴きに来る学生側双方のメリットを考え、今回の合同説明会を企画することとなった。そして、共に新しい仲間を獲得すること、そしてボランティア団体との輪、連携の体制を作ることを目標とした。まずは、普段使用される“ボランティア団体説明会”という言葉に注目した。今までの経験の中で、ボランティアという言葉を出すことによってボランティアをするということに対する敷居を高くし、人を遠ざけてしまっていたように私たち自身が感じていたからである。実際にボランティア活動をしている人には敷居が高いなんていう印象はないのだが、今から始めようという学生にとってはマイナスポイントになってしまうのではないかと考えた。そこで、今回の参加団体はボランティアに留まらず、様々な活動をしている団体で構成したことから「ベンチャーサークル合同説明会」と名付けた。そして、説明会冊子にもこだわった。ただ単にやっている活動を書くのではなく、自分の体験談、学んだことを盛り込んだものにし、現場の声を伝えようとした。そこで各団体に原稿を依頼し、写真などを盛り込みながら、「見たい、読みたい。」と思えるものにしようと工夫した。結果、参加団体からもこの冊子は好評だった。実際には、各団体に「こういうものを書いてほしい」というこちら側の意図がなかなか伝わらず、製作には苦勞したが、説明会に来てくれた人が熱心に冊子を読んでいるのを見て、頑張ったかいがあったと思った。しかし、広報活動には悪戦苦闘した。広報手段としては、ポートヘボン(学内ポータルサイト)、ポスター、立て看板、ちらしを使用した。中々手が回らず説明会ギリギリになってしまったのが実状だった。今後の課題として早めの広報が大切だと痛感した。また集客人数についても課題が残ったが、今後定期的に開催することで説明会に訪れる人は増加していくと考える。活動を知ってもらい興味を持ってくれる人が増えることを願い、地道にこのような機会を増やしていくことが必要だろう。一方でこの合同説明会を開催して新しい仲間を獲得した団体が多数あった。そして、参加団体からは同じ様にボランティア活動を積極的に行っている人と知り合う良い機会になったという声も寄せられた。こうしたつながりを作る機会としても有効だと考えるので、今後も続けていければいいと思う。(心理学部心理学科2年 須賀 ゆきの)